

2020年度 第3回産業医部会幹事会 議事録

日時：2021年2月27日9:00～11:30

場所：Web会議（ZOOM）

（敬称略）

出席：齊藤政彦、宮本俊明、森口次郎、西條泰明、原俊之、各務竹康、菅原保、
谷山佳津子、加藤憲忠、大橋力、福本正勝、塚原照臣、服部真、石川浩二、
岩根幹能、奥田昌之、真鍋憲幸、斎藤恵、杉原由紀、小田原努、
彌富美奈子、黒崎靖嘉

（監事）深澤健二

（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事

欠席：遠田和彦、伊藤正人

1. 審議事項

①前回幹事会議事録の確認【資料1】

石川幹事から報告があり、承認された。これを受けてホームページへ掲載することが確認された。また、役割分担表の最新版についても共有、確認した。

②2020年度活動報告について【資料2】

石川幹事より、2020年度の活動報告について説明があり、承認された。加藤幹事より、決算報告については、2月締めであるため、完成次第幹事会メーリングリストへ報告、審議とすると報告があった。

③専属産業医の規制緩和（業務のオンライン化）について【資料3】

齊藤部長より、医部会幹事会でまとめた意見書を提出し、厚生労働省から回答があった旨の報告があった。宮本副部長、森口副部長、大神専門医制度担当理事、黒崎幹事から意見や補足があった。

④専門医制度について【資料】

彌富幹事より、社会医学系専門医制度について、2021年4月から更新作業等が始まること、第30回全国協議会でのK単位の取得者数の報告があった。

大神明専門医制度担当理事から、2021年度が初めての更新年となること、更新は基本電子媒体での申請となる方向であることの説明があった。また、K単位とG単位の取得方法等について説明があった。

日本産業衛生学会の専門医試験については、合格率は高いとは言えない実態であり、今後指導医へ指導内容の充実等の依頼をする方向であると説明があった。

⑤医部会報について（編集委員会）【資料4】

谷山幹事から71号の発行済であること、72号が原幹事元、現在編集作業中であること、日本医師会の神村常任理事に巻頭言の執筆を依頼したことなど報告があった。原幹事より、今後行事一覧について各地方会幹事へ報告依頼があった。

⑥プロフェッショナルコースについて

加藤幹事より、1月30,31日にはじめてWeb上で開催したこと、大きなトラブルなどなく、高い満足度で大盛況であったことなどの報告があった。谷山幹事、森口副部長、石川幹事より、参加しての満足度、内容へ高い評価の感想があり、一方で質の担保の問題から人数が例年の半分であり、今後より多くの会員が参加できるとよいとの意見も出された。

⑦ポスター賞選考と表彰方法について【資料5】

西條幹事(選考委員長)より、第30回全国協議会の審査方法、結果などの報告があった。審査員が共同演者の場合の対応方法が課題であり、検討していくこととなった。

⑧健診結果のデータベース化について【資料】

宮本副部長から現状について、職域については特定健診の結果をデータベースに落とし込む方向で進めていることが報告された。大神明専門医制度担当理事から補足があった。

⑨日本医師会との関係について

斉藤部長より、産業医の組織化などの動きは特に進展がないと報告があった。森口副理事長より、遠隔での産業医研修について、限定的に単位取得を認定する方向で準備中であることが報告された。福本幹事より、単位取得についてのWebシステムについて、業務委託の調整について、今後情報があれば共有することが紹介された。菅原幹事より、ビジネス化に進みすぎないように、学会としても協力していく必要があると意見が述べられた

⑩医部会独自でのメルマガなどについて

斉藤部長より、部会員への情報発信が求められる中、メルマガを立ち上げる意見が出された。黒崎幹事よりメルマガのツールについては、UMINが妥当であること、定期的なメルマガとせず、新着情報など、タイムリーに開催通知案内等を送信する形などの提案がなされた。岩根幹事より、医部会報をPDF化して発信することは、コスト削減にも有効であると意見があった。

⑪ホームページの活用について

黒崎幹事より、部会ホームページについて、随時更新中であることが報告された。

⑫第94回学会(松本)医部会フォーラムについて【資料6】

塚原幹事より、「テレワークと産業保健」というテーマで準備を進めていることが報告された。演者について、遠隔産業衛生研究会、各種先進的な活動をしている企業などから演者を選出したことが報告された。

⑬第31回全国協議会自由集会について

石川幹事より、自由集会は比較的クローズドの会という趣旨から、①失敗から学ぶ産業医活動 ②産業医が取得して役立つ各種資格、が提案された。②については、産業医が普通に取得できる資格は対象外で、社労士、MBA、心理関係などを想定しており、産業保健活動へ有効活用できている事例とすべきと意見があった。

⑭四部会合同シンポジウムについて

第31回全国協議会について、「変化する働き方における産業保健サービスのあり方」をテ

一マとして、医部会からは真鍋幹事がシンポジストとして選任されたと報告があった。

⑮部会員増へ向けて

齊藤部会長から、さらなる会員数増加へむけての依頼があった。

⑯次回幹事会の日程について

2021年5月19日(水)9時(可能であれば8時30分)から11時20分、現地開催とする予定となった。

2. 報告事項

①第30回全国協議会開催報告

小田原幹事より、1395名が参加者し、会計処理も無事終了したと報告があった。彌富幹事、黒崎幹事から、社会医学系専門医関連企画が集客増へ影響したこと、育児中での参加、聴講したい企画の聴講、一般演題への多くの聴講などのメリットがあったことの報告があった。

②第31回全国協議会準備報告【資料7】

石川幹事より、2021年12月3日から5日に津市において開催予定であること、12月19日までオンデマンド開催であると報告があった。

③第32回全国協議会について

原幹事より、JR北海道の佐藤理事が企画運営委員長、原幹事が実行委員長となり準備を進めていると報告があった。

④第94回学会(松本)の準備報告【資料8】

塚原幹事より、現地開催を目指して準備中であること、一般演題は501演題が集まっていること等の報告があった。近日中に新型コロナウイルス感染症流行状況や国の動向をみながら、具体的な開催内容、方法を決定すると報告があった。

⑤第95回学会(高知)の準備報告【資料9】

杉原幹事より、2022年5月25日から28日に高知市で、6月16日から6月30日までオンデマンドで開催予定であり、企画運営委員長は高知大学の菅沼教授、事務局長は杉原幹事のもとで準備を進めていることが報告された。

⑥各種委員会報告

生涯教育委員会について、宮本副部会長より、第12回ベストGPS賞は該当なし、奨励賞を1名選出したと報告があった。

政策法制度委員会において、森口副部会長より、産業保健活動に関するあり方の答申が完成したと報告があった。

学術委員会について、森口副部会長より、4つのサブグループでの作業を進めており、次年度も継続していく予定であることが報告された。

広報委員会について、黒崎幹事より、学会ホームページの更新、会員・社会への情報発信、メールマガジンの発行などの推進について活動していく方針が報告された。

⑦各担当幹事報告

特になし。

⑧理事会報告【資料 10】

大橋幹事より、奨励賞選考細則の改正、COI 規定類の改正について報告があった。2023 年 5 月学会以後の学会の開催を、会場確保などの観点から 5 大都市での開催とすることとなったこと、広報委員会が設置され活動が開始されたことの報告があった。

⑨四部会長会議報告

斉藤部会長より、技術部会、歯科部会からは理事が選出されていない現状で、今後四部会長会議で意見を吸い上げていく必要性について報告があった。

⑩各地方会活動報告

福本幹事から 12 月に関東地方会医部会から、産業医ガイド改訂版を発刊したと報告があった。宮本副部会長より、コロナ禍で支出が大幅に削減されたため、地方会活動等での有効利用について呼びかけられた。

⑪その他

斉藤医部会長より、現在、各地方会長より新幹事の選出を依頼中であることが報告された。

以上